

間に、完全現地開催にて行うことを決定いたしました。お陰をもちまして多数のご参加をいただき、無事に学会を終了することが出来ました。関係各位の皆様のご支援とご協力の賜物と心より御礼申し上げます。

本学会では、学会創立者であります、初代理事長 小濱啓次先生の熱い思いを次世代へ引き継ぎ、さらに発展させるといふ趣旨で、大会テーマを『継承と創造』とさせて頂いた。数多くのシンポジウム・パネルディスカッション・一般演題の発表の場を設けること



第28回日本航空医療学会総会

が出来ました。

一 ほぼすべての都道府県にドクターヘリが整備された今日、次なる発展は、各都道府県の防災ヘリや消防ヘリとの協力による「救急ヘリ二機体制」ではないかと考えられています。熊本県では、全国に先駆けて、この体制を立ち上げ円滑な航空医療が営まれており、本学会ではそこに焦点をあて、熊本県知事 蒲島郁夫氏に「熊本県救急ヘリ二機体制の構築」というテーマで基調挨拶を賜り、シンポジウム「ドクターヘリ・公的ヘリを用いた広域救急医療体制のあり方」特に熊本方式について

第二十八回日本難病看護学会学術集会開催

熊本大学大学院生命科学研究部
環境社会医学部門看護学分野
看護実践開発講座 准教授

柘中智恵子

この度、二〇二一年七月十七日(土)、十八日(日)に熊本市民会館夢ホールにて、第二十六回日本難病看護学会学術集会を現地およびWEBによるハイブリッド開催いたしました。大会テーマは、「難病看護の本質を求めてー変わりゆくこと・変わらないことー」といたしました。

一般社団法人日本難病看護学会は、難病医療に携わる看護師、訪問看護師、保健師、難病診療連携コーディネーター、

」にて全国各地の広域医療に携わる先生方の熱い討論を聴講することが出来ました。

航空医療の歴史から最新の情報、そしてコロナ下での運航と、医師・看護師・消防・防災・関連企業まで、多くの意見を交わす有意義な学会になりました。このことを報告させていただきます。末筆ながら、本学術集会にご支援いただきました肥後医育振興会の皆様にご心より御礼申し上げます。今後ともご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

難病相談員、患者・家族を会員とする全国約八百名の学会です。今回、第二十六回大会長を拝命するにあたり、COVID-19感染症のことがありましたが、ハイブリッド開催といたしましたが、かえっていつもは参加できない方々からも参加していただくことができ、二日間を通して、のべ七百七十名の参加がありました。非会員の参加者も多く、「難病看護」について広く周知できたと思います。

COVID-19感染症によって難病医療に携わる現場は、通常業務以上の職務があるにも関わらず、三十五題の研究発表がありました。また、肥後医育振興会、研究成果公開促進費「研究成果公開発表」(B)、公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団から助成金を

いただくことができ、難病医療制度、遺伝性疾患へのケア、小児難病在宅ケア、就労支援、COVID-19感染症対策など十六の特別企画を開催することができ、一部は無料公開することもできました。

難病は、治療法が未確立で、患者や家族は様々な症状や障害とともに生きておられます。命への脅威が増大する時代、その一方で医療が大きく変革している時代において、「変わりゆく看護」「変わらなければならない看護」があることは必然的ですが、それに翻弄されるのではなく、その根底にある「変わらない看護」は何であるのか、

難病ケアの本質を見失わないように日々のケアに取り組むことについて考えることができた学術集会でした。末筆ではございますが、本学術集会の開催にご支援いただきました肥後医育振興会の皆様にご心よりお礼申し上げます。今後とも、ご支援のほど、どうかよろしくお願い申し上げます。

「第七十三回九州歯科医学大会 in 熊本」開催

第七十三回九州歯科医学大会 会長
一般社団法人熊本県歯科医師会

伊藤 明彦

十月二十三日(土) 午後一時半から
標記学会が新型コロナウイルス感染症拡大により一年延期されたが今年度は東京